

年間第30主日

最も重要な掟

マタイ福音書 22:34-40

(そのとき) ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を言い込められたと聞いて、一緒に集まった。そのうちの一人、律法の専門家が、イエスを試そうとして尋ねた。「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」

きょうのテキストは、イエスがエルサレム入城した一連のたとえ集、敵対派との問答集のシリーズの最後、末尾となります。わたしたちの日常生活習慣とは違うのですが、今年のキリスト教の暦は今年11月29日でおわり、11月30日からは降誕節が始まり、新しい年となります。

さて、きょうもイエスを試そうとするグループから質問を受けます。それに対してイエスはこう返答します。

「先生、律法の中で、どの掟が最も重要でしょうか。」イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』これが最も重要な第一の掟である。第二も、これと同じように重要である。『隣人を自分のように愛しなさい。』律法全体と預言者は、この二つの掟に基づいている。」 22:36-40

キリスト教では旧約聖書と読んでいますがユダヤ人は「律法全体と預言者」と呼んでいます。「律法全体と預言者」とは旧約聖書の別名です。考えてみれば当たり前ののですが、イエスの存命中にキリスト教はありません。だからイエスも聖書のことを「律法全体と預言者」と呼んでいるのです。

すこし前にきょうのテキストと似ているところがあります。

さて、一人の男がイエスに近寄って来て言った。「先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすればよいのでしょうか。」イエスは言われた。「なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいのなら、掟を守りなさい。」男が「どの掟ですか」と尋ねると、イエスは言われた。「『殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証するな、父母を敬え、また、隣人を自分のように愛しなさい。』」そこで、この青年は言った。「そういうことはみな守ってきました。まだ何か欠けているのでしょうか。」イエスは言われた。「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、わたしに従いなさい。」マタイ 19:16-21

イエスは質問者の期待する回答とは別に昔の掟、青年に対しては十戒（申 5:1-出 20:1-）ファリサイ派に対してはシェマー（申命記 6:4-）で答えました。

注記：「心を尽くし…」は申命記 6:5 の引用、「聞け、イスラエルよ、我らの神、主は唯一の神である」同 6:4 に続く掟で「シェマー（聞け）」の祈りとしてユダヤ人が日々唱えるものとされていた。

わたしはこれをイエスのユーモアといったら御幣があるのですが一種独特の「はぐらかし」だと感じています。毎週の礼拝のパンとワインの儀式的祈りの中でわたしたちはこう祈っています。

わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところの一切を、はるかに超えてかなえてくださることができる方に、教会により、またキリスト・イエスによって、栄光が世々に限りなくありますように。アーメン

きどった言い方になってしまうのですが、わたしたちが自分で願う祈りがかなうことなんて小さい小さい、神は「はるかに超えてかなえてくださることができる方」です。こうこなくっちゃねえ。

イエスの答えは「はぐらかし」のように見えますが、実ははるかに超えた答えになっているのではないか、イエスの回答はただの復古、律法と預言者の教えに戻れ、のように見えるが、そうじゃないだろう。これを申命記の教えに戻りなさいというように捉えると原理主義となってしまいます。たとえそ

れを飾り立てて現代風にアレンジしても原理は原理です。

イエスはあらゆるシーンでただ原理を述べているのではない、イエスを遣わした方として語り行動しています。それゆえにいまもその教えが世界に影響を与え続け、世界を変容する力として働いています。